

ポスト音声翻訳時代に向けたバリアフリー社会実装

概要

ATR・NICTの多言語音声翻訳技術に基づくコミュニケーションを支えるソリューションを起点とし、人間らしいバリアフリーな社会をつくる課題に取り組んでいます。実装例には、交通窓口や放送案内向けの多言語音声翻訳・自然言語処理システム、聴覚障害者や高齢介護への支援、産業分野での音響解析と機械学習による設計支援ツールの開発が挙げられます。

特徴

- 【音声言語・音響工学】 多言語音声翻訳技術とそのコミュニケーションを支える技術。さらに、センシング、エリア收音、音声・音響解析、自然言語処理、および音場制御技術などに力を入れ、言語・音・空間の接点がある分野で貢献。
- 【実装例】 自治体、鉄道・観光、イベントなどの窓口や、放送案内向けの多言語音声翻訳・自然言語処理システムの開発と運用、また、企業、教育、介護などでの聴覚障害者や難聴者のコミュニケーションを支援するアプリを提供。
- 【バリアフリー】 ①「言語」バリア： 装置の多言語対応
 ②「身体」バリア： 対話支援アプリ「こえとら」「SpeechCanvas」、介護支援
 ③「産業」バリア： 音響解析と機械学習による異音検出などの設計支援

今後の展開

- 人間らしいバリアフリー社会をつくるため、多言語音声翻訳システムと周辺技術を整え、社会実装を普及します。また、産業分野では音響解析と機械学習による開発を加速し、生産性向上および新たな感性体験創出に貢献します。

テーマ「ともに究め、明日の社会を拓く」との関連

- 【解決が困難な社会課題】 高齢化社会による労働力の減少に伴い、生産活動を維持するためにはサイバーによる生産性向上が必要です。「音声言語」や「音響工学」の解析技術を融合し、人間らしいバリアフリー社会をつくります。

